

平成 29 年度

病虫害発生予察情報 第2号

4月月報

北海道病虫害防除所 平成 29 年5月 18 日
http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・並雨（少雪）・多照』寒暖繰り返し、強風害も発生－

この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かった。中旬以降は15～17日に気圧の尾根や高気圧の張り出しの中となって晴れた日が続いた他は、短い周期で天気が変わった。気温は上旬は平年より高く、月平均気温も高かった。降水量は上旬は平年より少なかったが、中旬は多く、月降水量は平年並だった。日照時間は上旬は平年よりかなり多く、下旬は多く、月間日照時間も多かった。降雪量は上旬は平年よりかなり少なく、月降雪量もかなり少なかった。なお、1961年の統計開始以降、上旬の降雪量は北海道地方と日本海側、及び太平洋側で最も少なかった。

上旬：1～5日は高気圧に覆われて概ね晴れたが、1～3日は湿った気流や気圧の谷の影響で渡島半島を中心に雪や雨の降った所があった。6日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、次第に気圧の谷が接近し日本海側や太平洋側西部で雨が降った。7日は低気圧の影響で雨の降った所が多かったが、次第に高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。8日は気圧の谷の影響により日本海側北部などで雨や雪が降った。9日は高気圧の張り出しの中となって日本海側を中心に晴れた所が多かったが、雨や雪の降った所もあった。10日ははじめ気圧の谷の影響で雪の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて全道的に晴れた。

中旬：11日は高気圧の張り出しの中となって概ね晴れたが、次第に気圧の谷が接近し雨の降った所が多く、大荒れの天気となった所もあった。12日は発達した低気圧の影響で全道的に雨や雪が降ったが、渡島半島では次第に晴れた。13日は冬型の気圧配置となって広い範囲で雪が降ったが、太平洋側を中心に晴れた所もあった。14日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、気圧の谷が通過して雨や雪の降った所もあった。15～17日は気圧の尾根や高気圧の張り出しの中となって概ね晴れた。18日は発達した低気圧の影響で全道的に雨や雪が降って、大雨や大荒れの天気となった所もあり、停電や交通障害、家屋やビニールハウスの損壊等の被害が発生した。日降水量は登別市カルルスで135.0mmなど。19日は低気圧を含む気圧の谷の中となって雨や雪の降った所が多かったが、太平洋側東部では晴れた。20日は冬型の気圧配置となって雪や雨の降った所があったが、太平洋側では晴れた所が多かった。

下旬：21日は気圧の尾根の中となって広い範囲で晴れたが、次第に上空に寒気を伴った低気圧が接近し渡島半島などで雨や雪が降った。22日は上空に寒気を伴った低気圧の影響により広い範囲で雨や雪が降ったが、宗谷地方などでは晴れた。23日は気圧の谷の影響でオホーツク海側や太平洋側東部を中心に雨や雪が降ったが、次第に高気圧に覆われて日本海側や太平洋側西部では概ね晴れた。24日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。25日ははじめ高気圧に覆われて概ね晴れたが、次第に前線が接近し広い範囲で雨が降った。26日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、日本海側やオホーツク海側では概ね晴れた。27日ははじめ高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、低気圧を含む気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。28～29日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で雨の降った所も多かった。30日は低気圧が接近し日本海側やオホーツク海側北部で雨が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側では概ね晴れた。

気象表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照時間	階級
北海道 22 地点平均	+0.7	高	97	並	110	多
日本海側 10 地点平均	+0.7	高	110	並	109	多
林-ツク海側 4 地点平均	+1.0	高	55	少	113	多
太平洋側 8 地点平均	+0.6	高	101	並	111	多

(注) 階級分布図は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。

また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か低(少)」、「か高(多)」(かーかなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 秋まき小麦

1. 雪腐病 発生量 並

予察ほにおける根雪始めは、長沼町では平年並、芽室町では平年よりやや早く、訓子府町では早かった。融雪期は、長沼町では平年より早く、芽室町、訓子府町では平年並だった。積雪期間は、長沼町では平年より短かったが、芽室町および訓子府町では長かった。

主力品種「きたほなみ」における雪腐病の発病度は、長沼町および芽室町では平年より高く、訓子府町では平年より低かった。病原菌種別で見ると、長沼町では雪腐褐色小粒菌核病、芽室町、訓子府町では紅色雪腐病が主体だった。

一般ほにおける発生面積率、被害面積率はともに平年並だった。ただし、上川および留萌地方では被害面積率が高まった。病原菌種別では、雪腐褐色小粒菌核病の割合が高い地域が多かったものの、石狩、オホーツク、十勝地方では紅色雪腐病の割合が高かった。

予察ほにおける積雪状況

地点	根雪始		融雪期		積雪期間(日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	12月6日	12月8日	3月21日	4月2日	105	116
芽室町	12月6日	12月9日	4月7日	4月5日	122	118
訓子府町	11月28日	12月6日	4月2日	4月1日	126	117

予察ほにおける雪腐病の発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	28	19	10
	ホクシン	17	11	10
	きたほなみ	20	10	7
芽室町	チホクコムギ	58	32	10
	ホクシン	60	23	10
	きたほなみ	54	31	8
訓子府町	チホクコムギ	19	37	10
	きたもえ	11	30	8
	きたほなみ	13	30	8

予察ほにおける雪腐病の病原菌種別発生割合（単位：％）

地点	長沼町					
	チホクコムギ		ホクシン		きたほなみ	
品種名	本年	平年	本年	平年	本年	平年
菌種						
雪腐大粒菌核病	0	0	0	0	0	0
雪腐黒色小粒菌核病	8	5	9	4	3	4
雪腐褐色小粒菌核病	62	59	44	64	67	61
紅色雪腐病	31	6	47	6	30	17
褐色雪腐病	0	30	0	27	0	19

(前ページより続く)

地点	芽室町					
	チホクコムギ		ホクシン		きたほなみ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	10	27	14	29	0	13
雪腐黒色小粒菌核病	36	26	30	30	5	27
雪腐褐色小粒菌核病	5	20	12	11	0	9
紅色雪腐病	48	28	45	30	95	51
褐色雪腐病	0	0	0	0	0	0

地点	訓子府町					
	チホクコムギ		きたもえ		きたほなみ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	24	0	17	0	22
雪腐黒色小粒菌核病	15	52	56	69	5	51
雪腐褐色小粒菌核病	14	1	21	1	19	1
紅色雪腐病	71	23	23	13	77	26
褐色雪腐病	0	0	0	0	0	0

一般ほにおける雪腐病の発生状況（総合振興局・振興局別調査結果）

振興局	作付面積 (ha)	発生面積率 (%)		被害面積率 (%)		発生ほの病原菌種別発生割合 (%)					
		本年	平年	本年	平年	大粒	褐小	黒小	紅色	褐色	その他
空知	15,781	40.2	49.3	11.5	5.7	0	46.4	8.8	4.6	40.2	0
石狩	6,287	18.1	67.2	2.6	11.7	0	14.1	20.6	50.3	15.0	0
後志	1,360	57.0	51.7	5.1	1.5	0	80.9	2.0	14.0	2.9	0
胆振	1,496	4.8	12.2	1.0	0.7	0	49.2	0	36.8	14.0	0
檜山	614	22.1	17.3	4.0	0.9	0	68.4	3.0	28.6	0	0
上川	10,717	83.4	67.1	42.0	13.8	0	52.8	9.8	9.8	27.6	0
留萌	813	97.3	62.5	68.0	8.0	0	71.7	0	1.0	27.6	0
オホーツク	22,351	29.0	37.4	1.6	4.2	0	6.2	12.0	70.5	11.3	0
十勝	43,577	34.3	15.2	1.3	1.5	0.2	3.0	8.3	88.2	0	0.4
全道計	102,997	38.5	34.0	7.8	4.5	0.1	25.2	9.3	49.6	15.6	0.1

注) 大粒：雪腐大粒菌核病、黒小：雪腐黒色小粒菌核病、褐小：雪腐褐色小粒菌核病、紅色：紅色雪腐病
褐色：褐色雪腐病、その他：スッポヌケ病

2. 赤さび病 発生期 やや早 発生量 並

予察ほにおける「きたほなみ」の初発日は長沼町、訓子府町で平年より早かった。発生量は各地点とも平年並であった。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率 (%)*		平年数
				4月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	4月25日	5月8日	0	0.02	7
芽室町	きたほなみ	未発生	5月8日	0	0.01	8
訓子府町	きたほなみ	5月7日	5月22日	0	0	8

注) *: 全葉調査の平均値

3. うどんこ病 発生期 やや遅 発生量 並

予察ほのうどんこ病抵抗性“弱”である「チホクコムギ」における初発日は、長沼町では平年より遅く、訓子府町では平年並だった。発生量は、各地点とも平年並だった。主力品種「きたほなみ」において、訓子府町で平年並の初発を認めた。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率 (%)*		平年数
				4月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	5月8日	4月27日	0	0.31	10
	きたほなみ	未発生	5月8日	0	0	7
芽室町	チホクコムギ	未発生	4月26日	0	0.09	10
	きたほなみ	未発生	5月11日	0	0.01	8
訓子府町	チホクコムギ	5月2日	5月1日	0	0.10	10
	きたほなみ	5月8日	5月8日	0	0	8

注) *: 全葉調査の平均値

B. あぶらな科野菜

1. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる雄成虫の初誘殺日は、北斗市および芽室町で平年より早く、長沼町で平年よりやや早く、訓子府町では平年並であった。誘殺数はいずれの地点も平年並であった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月4半旬	1.5	0.4	0	2.3	1	0.0	0	0.0
5半旬	1.4	1.1	7	3.8	2	0.6	0	0.2
6半旬	2.7	1.3	10	3.3	2	0.5	0	0.6
5月1半旬	7.2	2.4	15	15.6	1	1.8	0.3	6.0
2半旬	4.8	11.8	4	27.4	5	2.3	1.7	5.7
初誘殺日	4月16日	4月21日	4月11日	4月20日	4月19日	5月1日	5月5日	5月4日

C. りんご

1. ハダニ類（リンゴハダニ） 越冬卵量 並

予察園の1短果枝当たり越冬卵数は、長沼町（無防除）で0卵（平年：0卵）、余市町（慣行防除）で0卵（平年：0卵）と平年並であった。

2. ハマキムシ類（ミダレカクモンハマキ） 越冬卵量 並 発生期 やや早

予察園の5年枝1本当たりの越冬卵塊密度は、長沼町（無防除）で0.3卵塊（平年：0.03卵塊）、余市町B（慣行防除）では0.01卵塊（平年0.01卵塊）と平年並であった。余市町A（慣行防除）では卵塊が認められなかった。越冬卵のふ化始は、余市町（慣行防除）で4月30日（平年：5月5日）と平年より早く、長沼町では5月5日（平年：5月5日）と平年並であった。